

ミニ講座

相談支援について ③

相談支援のステップ

インテーク（最初の面談）→アセスメント→支援計画作成→モニタリング

今回も、アセスメントです。（この後しばらく、事例検討、手法を含めてアセスメントについての講座が続きます。）

2. アセスメント (i)

1)アセスメントとは

アセスメントとは、みなさんの現在の状況について、インテークで得られた情報の分析を行い、みなさんの現在の生活上の問題と状況を把握・理解し、その問題を解決するために、支援計画を立案したり、解決のためのネットワーク形成を行うプロセスです。

アセスメントは、みなさんと支援者が協働で行います。仮説を立てて取り組み、その結果を評価し、改善を加え、再び取り組むことを繰り返します。

そして、アセスメントをみなさんと支援者が協働で行うなかで、支援者も、みなさんの置かれている状況やとりまく環境について理解を深め、信頼関係を築くことに努めます。そのために、支援者は初回面接から支援の各段階を含めて常にアセスメントの視点を持ってみなさんと接しています。そして、みなさん自身にも、自分の課題を理解し、表現できるようになっていただくことを心掛けています。このような支援を心がけることによりみなさんも、

- ・この支援者は、話を聞いてくれると思えてくるのではないのでしょうか。
- ・この支援者には、困っていることも含めて自分のことについて語れるようになるのではないのでしょうか。
- ・そして、支援者との間に、信頼関係が築けてくるのではないのでしょうか。
- ・また、そのような信頼できる支援者と話をしているうちに、自分で自分の課題が整理できるようになるのではないのでしょうか。
- ・そして、自分の今後を描き、そのために自分がなすべきことも分かってくるのではないのでしょうか。

こうしてみると、アセスメント自体が、みなさんへの支援の一部でもあるわけ

です。

2)アセスメントの方法

アセスメントを行う際には、身体面・心理精神面・環境面と全方位的な視点を持つことが求められます。インタビューで集められた情報を精査し、みなさんを支援するために足りない情報を補足し、多職種（行政職員、保健医療関係者、地域支援センター職員など）によるアセスメントを行い適切な支援計画を作成する必要があります。

例えば、介護保険制度により設置されている、地域包括支援センターには、多職種連携による地域ケア会議が義務付けられています。地域ケア会議とは、地域包括支援センターが総合相談を通じて把握した課題を抱えているケースを支援するために、個別課題解決に必要と思われる行政職員、センター職員、介護支援専門員、介護サービス事業者、保健医療関係者、民生委員、住民組織等から構成される会議で、高齢者個人に対する支援の充実や社会基盤の整備を目的としています。

このように、個別課題を解決する時に、多機関・多職種が多角的視点から検討を行うことにより、問題解決が容易になります。更には、そのようなプロセスを通して、地域包括支援センター職員や、介護支援専門員等の実践上の課題解決力向上を図り、自立支援に資するマネジメント等の支援の質を高めることができます。

多職種によるアセスメントのメリットを挙げると次のようになります。

- ・第三者による客観的な視点を得ることができる
- ・それぞれの専門性を活かしたアセスメントができる
- ・様々な制度やサービスの組み合わせが可能になる
- ・横の連携による支援チームの形成ができる

つまり、みなさんの課題を解決するためには、数多くの人間が関り、みなさんの置かれた状況、環境、これまでの経緯を十分理解したうえで、解決策が立案、実行されるということです。ですから、みなさんも、自分ひとりで、問題を抱えるのではなく、相談を受けてみてはいかがでしょうか。